

## 5 家畜保健衛生所の広報活動推進

○穴水 真奈 藤森 英雄

### 要約

近年、家畜伝染病が国内で多発しており報道で目にする機会が増えている。一方、都民に対して家畜保健衛生所（以下、「家保」という。）の業務について広報活動を実施する機会はありません。そこで、2022年度開催された秋の家畜ふれあいデー（以下、「本イベント」という。）に家保ブースを出展し、参加者に対して家保業務に関する広報活動を実施した。本イベントは、2022年10月22日公益財団法人東京都農林水産振興財団主催で開催された。同会場では、東京都酪農業協同組合主催の東京都乳牛共進会が開催された。畜産関係以外の参加人数は約1,000名で、家保職員からは3名参加した。家保ブースでは、採血道具等の展示、マイクロピペット操作体験、家畜衛生関連等チラシ配布及びパネル展示を実施した。合わせて、家保ブースに立ち寄った参加者に対し、家畜衛生及び家保業務に関するアンケートを実施した。家保ブースに立ち寄った約100名の内、24名がアンケートに回答した。その結果、家保ブースに立ち寄った約6割が本イベントで家保を初めて知った人であった。また、「今回の展示で家保を知ることができたか」については「できた」、「何となくできた」と全員が回答した。本イベントでは、家保ブースに立ち寄った参加者に対して家保の業務を概ね理解してもらうことができた。今後も都民向けのイベントに積極的に参加し、家保の業務に関する広報活動を実施する。

現在、国内では豚熱や鳥インフルエンザといった家畜伝染病が多発しており、インターネットやテレビの報道で目にする機会が増えている。その一方で、都民に対して家保の業務について広報活動を実施する機会はありません。そこで、今年度開催された本イベントに家保ブースを出展し、参加者に対して家保の業務に関する広報活動を行った。なお、本イベントは定期的には開催されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため3年ぶりの開催となり、家保ブースを出展したのは今回が初めてであった。

### 本イベントの概要

本イベントは、2022年10月22日公益財団法人東京都農林水産振興財団主催により青梅庁舎で開催された。また、同会場では東京都酪農業協同

組合主催の東京都乳牛共進会が開催された。畜産関係以外の参加人数は約1,000名で、家保職員からは3名参加した。本イベントでは、東京産畜産物の販売、牛とのふれあい、バター作り体験、多摩産材木工・丸太切り体験及び苗木の無料配布などが行われていた。

### 広報活動の概要

家保ブースでは、採血道具等の展示、マイクロピペット操作体験、家畜衛生関連等チラシの配布及びパネル展示を実施した。合わせて、家保ブースに立ち寄った参加者に対し、家畜衛生に関する知識及び家保業務の認知度に関するアンケートを実施した（図1）。



図1 家保ブース概要

### 1 採血道具等の展示及び家畜衛生関連等チラシの配布

馬の健康手帳、蹄鉄、ダチョウの卵、シリンジ及びマイクロピペット等を展示した。家保職員1名が常駐し、参加者に対して道具の使用方法等の説明を行った。合わせて、農場 HACCP、アニマルウェルフェアや入山者向けの豚熱ウイルス拡散の注意喚起に関するチラシを配布した。また、参加者の興味を引くため、家保ブース正面にて看板の設置や防護服の展示を行った(図2)。



チラシ:農場HACCP、アニマルウェルフェア、(入山者向け)豚熱ウイルス拡散の注意喚起

看板・防護服展示

図2 採血道具等の展示・チラシ

### 2 マイクロピペット操作体験

96穴プレート、リザーバー、粉末色素、マイクロピペット、チップを使用した。なお、粉末色素は水を加えると青色に変化する物を使用した。また、本体験では参加者が実際に検査をしているように感じてもらうため、検査キットの箱や容器等を使用した(図3)。

参加者の体験方法については、マイクロピペットの使用法について家保職員から説明を受

け、リザーバーに入っている水をモジュールに移す、という流れで実施した。最後に、色が変わったモジュールを確認し、実際の検査では陽性となることを説明した(図4)。本体験は子どもに好評であった。また、本体験の参加者に対して、東京都が作成したクリアファイル、メモ帳やタオルなどを同封したエコバックを配布した。

#### 〇材料

96穴プレート、リザーバー、粉末色素、マイクロピペット、チップ



図3 マイクロピペット操作体験



#### 体験方法

- 1、マイクロピペットの説明を聞く
- 2、容器に入っている水をリザーバーへ
- 3、チップ装着
- 4、リザーバーに入っている水をモジュールに移す
- 5、色が変わっているモジュールを確認
- 6、チップをバケツに廃棄
- 7、検査説明を聞く

図4 マイクロピペット操作体験方法

### 3 パネル展示

家保の業務紹介、豚熱や鳥インフルエンザ等の家畜伝染病についての紹介、入山者向けの豚熱ウイルス拡散の注意喚起に関するパネルの屋外展示を実施した(図5)。



屋外展示

(左)家保の業務紹介 (右)東京の畜産物紹介

図5 パネル展示

#### 4 アンケート

##### (1) 概要

家畜衛生に関する知識及び家保業務の認知度を把握するためにアンケートを実施した。対象は家保ブースに立ち寄った約 100 名の参加者で、方法はグーグルフォームを用いた Web アンケートと紙のアンケートを併用して実施した。

当所では、スマートフォンが普及している状況から、Web での回答が多いと予想していたが、「スマートフォンを使用してアンケートに答えたことがないので使い方が分からない」、「スマートフォンを持っていない」、「紙の方が慣れていて時間がかからない」等の理由から、回答は Web アンケートが 0 件、紙でのアンケートが 24 件という結果であった。

##### (2) 調査項目

設問は全部で 16 問とし、大きく 4 つの項目についてアンケートを実施した (図 6)。

<b>I 回答者の情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般の方、東京都関係者、畜産関係者</li> <li>秋の家畜ふれあいデーの参加頻度</li> <li>畜産関係のイベントに今後も参加したいか</li> </ul>
<b>II 家保の業務</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家保を知っているか</li> <li>どのような業務を行っているか知っているか</li> <li>今回の展示で家保を知ることができたか</li> <li>家畜保健衛生所に期待することはあるか</li> </ul>
<b>III 家畜衛生に関する知識</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家畜伝染病(豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫、鳥インフルエンザ)を知っているか</li> </ul>
<b>IV その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ブランドの畜産物を知っているか</li> <li>東京産畜産物を購入したことはあるか</li> <li>畜産物を購入する時の基準は何か</li> <li>HACCPという言葉を知っているか、また何の略か</li> <li>アニマルウェルフェアという言葉を知っているか、また何の略か</li> <li>今日、会場の中に近づいた時に臭いと感じたか</li> </ul>

図6 アンケート 調査項目

##### (3) 結果

###### ①回答者の情報

「一般、東京都関係者、畜産関係者」の選択肢の中で、全員が一般と回答した。また、83%が都内在住であった。次に、「今回のイベントの参加頻度」の設問について、「ほぼ毎年、時々、初めて」の選択肢の中で、65%が今回初めて秋の家畜ふれあいデーに参加したと回答した。最後に、「畜産関係のイベントに今後も参加したい

か」の設問について、回答者全員が「必ず参加したい、機会があれば参加したい」と回答した (図 7)。

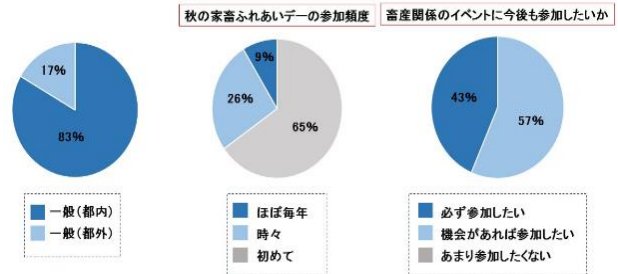


図7 アンケート結果(I 回答者の情報)

###### ②家保の業務

「家保を知っているか」という設問について 63%が「知らなかった」と回答した。また、「どのような業務を行っているか知っているか」という設問について、67%が「知らなかった」と回答した。次に、「今回の展示で家保を知ることができたか」という設問について、「出来た、何となく出来た」と全員が回答した。最後に、「家保に期待することはあるか」という設問について、42%が「ある」と回答した (図 8)。

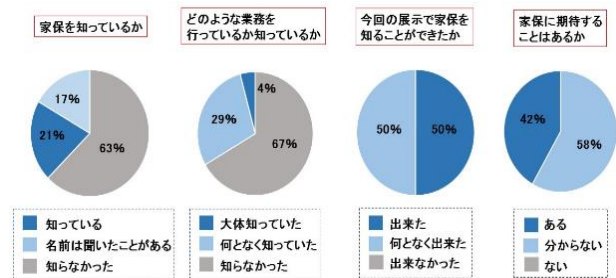


図8 アンケート結果(II 家保の業務)

###### ③家畜衛生に関する知識

「豚熱、口蹄疫を知っているか」の設問について、61%が「知っている」と回答した。また、「鳥インフルエンザを知っているか」の設問について、回答者全員が「知っている」と回答したが、アフリカ豚熱については回答者全員が「知らない」と回答した (図 9)。

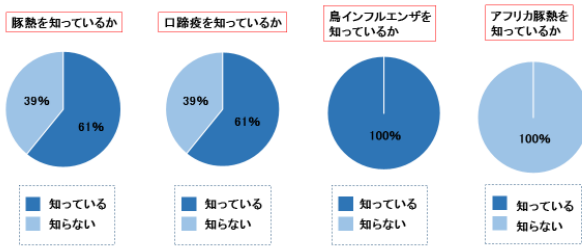


図9 アンケート結果(Ⅲ家畜衛生に関する知識)

#### ④その他

「東京ブランドの畜産物を知っているか」の設問について、96%が「知っている」と回答した。次に、「東京産畜産物を購入したことはあるか」の設問について、96%が「ある」と回答した。次に、「畜産物を購入する時の基準は何か(複数回答)」の設問について、75%が価格、71%が産地(国内産)、33%が見た目(鮮度、切り方、サイズ、パッケージ等)、17%が産地(都内産)、銘柄と回答した(図10)。

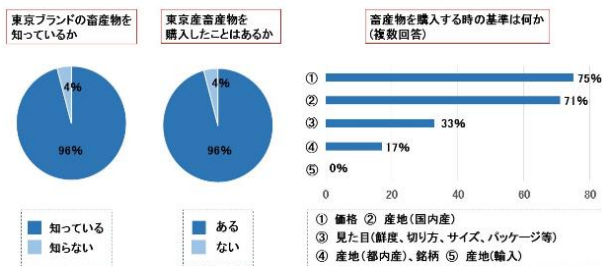


図10 アンケート結果(Ⅳその他)

次に、「HACCP という言葉を知っているか」の設問について、78%が「分からない、知らない」と回答した。また、「知っている」と回答した人の中で、生産物の安全性を確保する仕組みの略であると正答した人は40%であった。次に、「アニマルウェルフェアという言葉を知っているか」の設問について、65%が「分からない、知らない」と回答した。また、「知っている」と回答した人の中で、動物の福祉の略であると正答した人は63%であった。最後に、「会場の牛に近づいた時に臭いと感じたか」の設問について、48%が「気にならない、感じなかった」と回答

した(図11)。

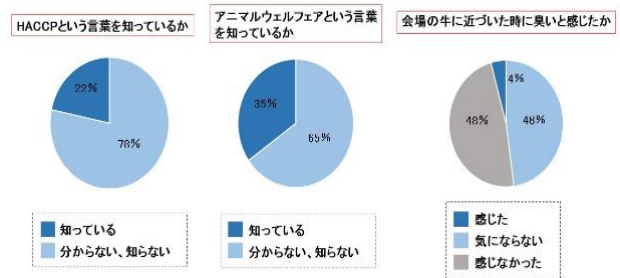


図11 アンケート結果(Ⅳその他)

#### (4) 考察

「家保を知っているか、どのような業務を行っているか知っているか」の設問について約6割が「知らなかった」と回答した。また、「家畜伝染病を知っているか」の設問について約4割が「豚熱、口蹄疫を知らない」、全員が「アフリカ豚熱を知らない」と回答した。このことから、今後も家保の業務に関する広報活動を実施する必要があると考えられる。

#### まとめ及び今後の予定

人員不足により、予定していた一部の体験コーナーを実施することができなかった。そのため、次回は家保職員の人員を増やして参加する予定である。また、マイクロペット操作体験コーナーを実施している場所に看板等を設置しなかったため、何を行っているのかわかりにくい状況であった。そのため、次回は「マイクロペット操作体験実施中」等の看板を掲示したいと考えている。最後に、今回のアンケートでは回答者の年齢や性別等の属性に関する設問を設けなかったため、属性別の特徴や傾向の把握を行うことが出来なかった。そのため、次回はより詳細な結果や調査を行うためにアンケート内容の見直しを行う予定である。

本イベントに家保ブースを初めて出展し、家保のブースに立ち寄った参加者に対して、家保の業

務を概ね理解してもらうことができた。今後も都民向けのイベントに積極的に参加し、家保の業務に関する広報活動を実施する。